

2. バスの正着性指標について ～ 持続可能な公共交通体系の構築に向けて ～

バス正着性指標の設定

■連節バス車両のスロープ（約 80cm）、一般バスのスロープ（約 100cm）を考慮すれば、バスの車体と歩道との離隔距離は、80cm 未満により、車いすは乗車可能。

■ある調査[※]では、バス利用者が車道に降りることなくバスに乗車するためのバスの車体と歩道との離隔距離は 60cm 未満であること。

※出典：小林 史彦・川上 光彦・沈 振江：モデルバス停におけるバリアフリーの実態と課題に関する調査研究 金沢市における事例研究、第 28 回土木計画学研究発表会・講演集

■日本人の歩幅と、年齢階層別バス利用者数を考慮すると、バス車体と歩道との離隔が 50cm まで縮めることにより、90%以上のバス利用者が自然な歩幅で車道に降りることなくバスに乗車することが、可能。

⇒新潟市においては、50cm を正着度合いの指標とする。

日本人の歩幅について

■H23 実施の都市交通特性調査、及び日本人の性別年齢別歩幅の調査結果に基づけば、50cm の歩幅よりも大きな歩幅で歩く新潟市のバス利用者は、バス利用者全体の 9 割を超える。

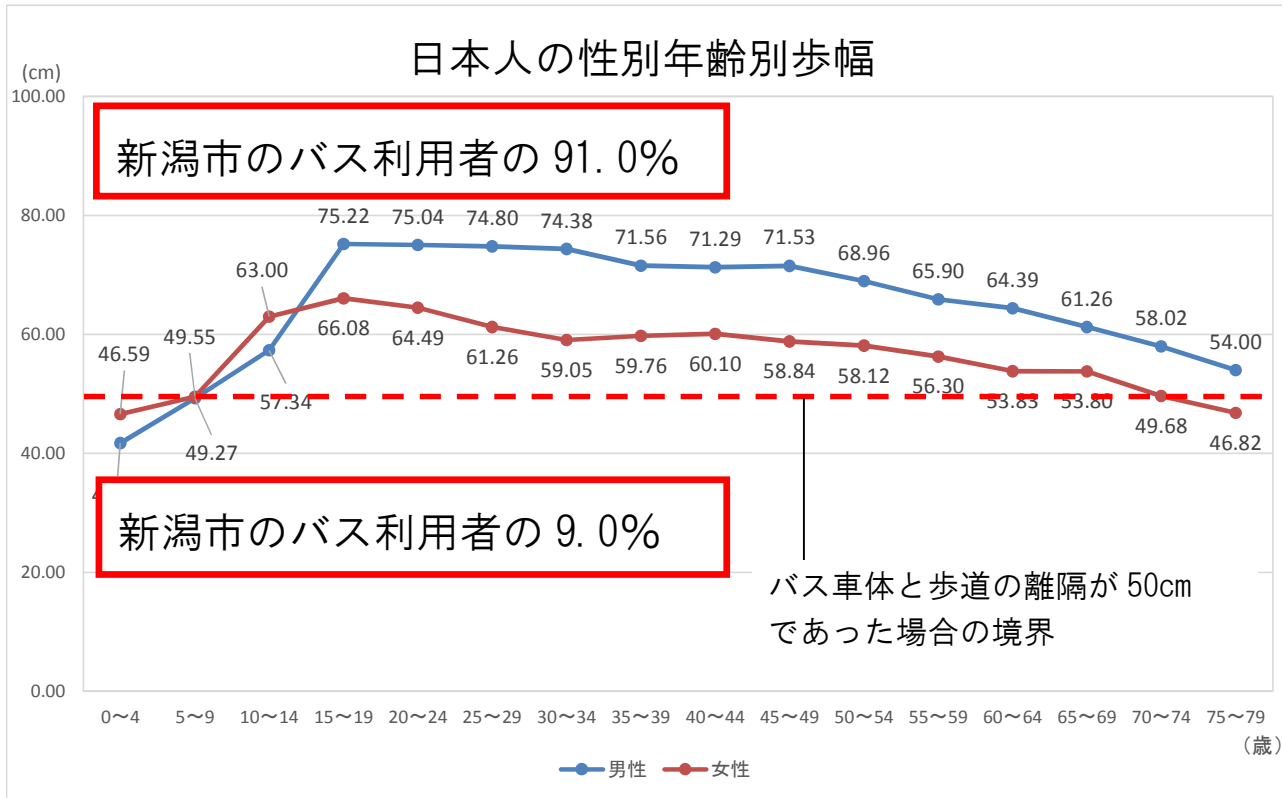


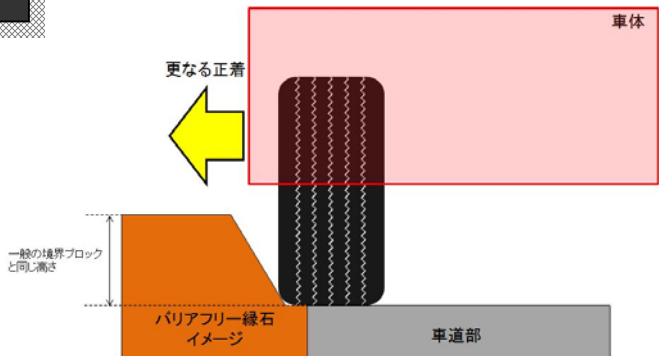
図-1 年齢別歩幅

参考:「歩行の運動生理」阿久津邦男 IATSS(公益財団法人国際交通安全学)Review Vol.3, No.4 1977

更なる正着性向上に向けた取り組み

■新潟市において、正着性向上に向け、バスのタイヤのガイドとなり、車両を正着できるように誘導する縁石の導入を検討中（右図：バリアフリー縁石のイメージ図）。

■新潟市などにより、運転士の習熟や、公道への導入に向けた課題を把握・検討するべく、社会実験を実施中。



2. バスの正着性指標について ～ 持続可能な公共交通体系の構築に向けて ～

バリアフリー縁石の実験について

[現場の縁石設置状況]



＜縁石形状パターン1＞



＜縁石形状パターン2＞

[実験実施状況]

